

特 集

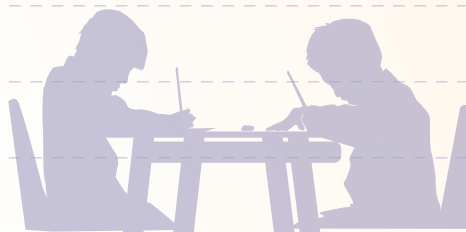
「小6 合判模試」3

中学入試レポート vol.

最新の入試動向から探る

With コロナ時代の来春 2021 年の 人気予測と併願校選びのポイント

6年生の「合判模試」も今回で3回目。本来ならば大勢の仲間が集まって力を競う、こうした模試の雰囲気や形式によりやく慣れてくる時期。ただしコロナ禍の今年度は、会場での模試実施の可否も直前まで確定が難しい。とはいえ来年2月の入試本番まで、すでに残り5か月足らず。いよいよこれからが、入試に即した実戦的な力を身につける段階だ。一方で保護者の皆さんは、わが子の受験校を固めていく時期になった。そこで今回は、この9月までに明らかになった最新の入試動向を踏まえて、来春2021年の入試状況をできる範囲で予想しながら、併願校選びのポイントをお伝えしていこう。



首都圏模試センター

“Withコロナ”の来春2021年に向けて 本格的な受験準備と学校選びを！

本来なら東京オリンピック・パラリンピックが行われているはずだった2020年の夏。しかし今年は、新型コロナウイルスの感染拡大のため、緊急事態宣言のもとでの外出自粛要請により、全国の学校が休校となった3月～5月の3ヶ月間。小学生にとっても、その間の学習時間を取り戻すための、異例の短い夏休みとなった。

中学受験生と保護者にとっては、各自治体の判断によって例年より期間が短縮された夏休みとその前後の7月～8月には、それぞれの通う塾との両立で苦労したケースもあったことだろう。

7月に入ってから再び東京を中心に全国で感染者数が増加。7月30日（木）には東京都から再び飲食店への営業時間短縮要請が出された。

そうした不安定な社会状況が続くなかで、来春2021年入試に向けた各校の入試改革・学校改革の動きや入試要項の確定は、例年よりもかなり遅れて公表されているのが現状だ。

多くの私立中高では6月から生徒の登校を再開して、学内の安全確保を最優先に学校活動を行っていることから、入試と広報に関わる先生方も多忙を極めている様子が、これまでならば6～7月には盛んになっている広報活動も、夏休み前にはまだ例年のように本格的にはできていない状況だ。

しかし、そうした状況のなかで夏休みも終わり、9月を迎えた。小6受験生は、いよいよ来春

2021年入試に向けて問題演習に取り組み、実践的な力を身に付けていく時期を迎えた。同時に保護者の皆さんにとっては、わが子の受験校選びのために、併願校も含めた様々な学校情報、入試情報をキャッチすべき時期を迎えたことになる。

7か月前までは、まったく予想できなかった現在の“withコロナ”の状況下で、来春2021年の中学入試ではどのようなことが起こり得るのか？

8月までに公表され判明した最新の入試情報と、そこから予想される人気動向などを考え併せて、受験生と保護者に意識していただきたいポイントをお伝えしていこう。

“Withコロナ”の来春2021年では 例年ない動きと志向の変化が！

来春2021年の中学入試を予想するうえでは、やはり“withコロナ”の年ゆえの要因や想定される動きを無視するわけにはいかない。これまでに判明した最新の入試情報や保護者の志向の変化から、以下に考えられる動きを紹介していこう。

【入試のオンライン化などコロナ感染対策】

①帰国生（別枠）入試にはオンライン入試が続々と登場。

⇒かえつ有明、湘南白百合、山脇学園、聖徳学園、文化学園大学杉並、目白研心など。

②一般入試にも初めてオンライン入試が登場！

⇒昭和学院、秀光、成立学園、中村など。

③入試でのコロナ対応も人気動向に反映か？

⇒オンライン入試をはじめ、時差対応（登校）、駐車場の設置、外部会場の増設など。

【入試や学校説明会などのコロナ対策】

④大規模入試（市川、栄東A）の実施方法は？

⇒ともに最善の安全対策をして例年通り実施する予定

⑤中学入試でも出題範囲を縮小する動きが！

⇒日本大学第二、立教女学院、東京学芸大学附



豊島岡女子学園は2022年から高
校募集を停止。完全中高一貫体制に高
なることが注目されている！

【お詫びと訂正】

前回7/5(日)小6第2回「合判模試」入試レポートの記事中の市川中第1回(幕張メッセ)入試の写真キャプションの一部に「来年は同会場が使えないという。どういう形で実施されるか？」という記載がありましたが、この情報は事実誤認でした。同校では現在、最善の安全対策を含めて、受験生が安心して受験できるよう、幕張メッセ側と打ち合わせを進めているとのことです。受験生と保護者に誤解を与える記載があったことを学校関係、および読者の皆様に深くお詫びし、訂正させていただきます。



属小金井など。

⑥今年度の学校説明会を中止する動きも

⇒聖光学院、筑波大学附属駒場は今年度すべての説明会・見学会を中止。立教女学院は11月説明会を中止。ともにオンライン化へ。

【受験生保護者の意識変化】

⑦1月試し受験と遠方入試の受験者は減少か？

⇒コロナ感染対策から保護者と塾が必要最小限の移動・受験に絞る可能性も。

⑧午後入試（午前と午後のダブル受験）の受験者も一部の人気校では減少か？

⇒午後の人気校（香蘭女学校など）の受験生も密を避け減少する可能性あり。

⑨震災後と同じく、自宅から近い学校への進学志向も増加。

⇒遠方の私学に公共交通機関を使って6年間通わせることに不安を感じる保護者も。

【新設校】

⑩川口市立高等学校附属中学校の新設開校。

⇒恵まれた校舎で高い人気となる予想。

【共学化と中学校再開】

⑪広尾学園小石川（現・村田女子）の中学再開と共学化。

⇒6月中旬のオンライン説明会に1,600名参加。

⑫芝浦工業大学附属の高校共学化に続く中学共学化。

⇒豊洲ブーム、この数年の人気上昇に加え、女子の受け入れでさらに難化の予想。

⑬光英VERITAS（現・聖徳大学附属女子）の共学化。

⇒新たな教育のステージへ！

【新コース制の導入】

⑭世田谷学園が「本科」と「理数」の2コース制に。

⇒算数1科特待入試の今春新設ともつながる理系教育の充実へ！

⑮開智中高一貫部が先端4コース制に。

⇒【先端IT】【先端MD】【先端GB】【先端FD】

の4コース編成を導入へ。

⑯聖学院が高校に「Global Innovation Class」を新設。

⇒2020年より完全中高一貫体制から高校募集を開始したのに続き、来春から高校に新クラスを設置。

⑰昭和女子大学附属昭和が中1から新コースを。

⇒スーパーサイエンスコースを1年次から募集スタートへ。

【公立中高一貫校のコロナ対策】

⑱神奈川県立中高一貫校がグループ活動中止。

⇒県立相模原・平塚の両校が、コロナ感染拡大防止のため2021年は実施しないと公表。

【休校期間のオンライン対応の公私間格差】

⑲休校時のオンライン対応に公私間格差

⇒この間の私立中高のオンライン対応と公立中高との格差を知り、私学に注目と期待を寄せる保護者が増加。

⑳在籍生徒へのIT環境整備のための補助金を給付する私学も。

⇒桐朋女子、東京家政大学附属などが実施。

中学入試は過去にも何度か、 危機を乗り越えて行われた！

ここで紹介してきた動き以外にも、今後さらに新たな動きが出てくる可能性もある。少なくとも来春2021年1～2月の時点では、新型コロナウイルスに有効なワクチンが開発され、一般に普及



本郷は2021年からの高校募集停止にともない、今春2020年から中学に募集の定員を増やした！

するところまで事態は好転しないと思われる。だからこそ、今年の小6受験生と保護者は、“withコロナ”下で、どのような状況になった場合でも対応できるよう、受験準備を進めていく必要がある。

従来の中学入試では、オンラインによる入試の実施など検討されたこともなかっただろうが、すでに大学院の入試では東京大学が実施を公表。大学入試でも横浜国立大学は個別学力検査は実施せず、大学入学共通テストの成績により選抜することや、慶應義塾大学のAO入試で、オンラインでの入試の実施が公表されている。

皮肉なことに今回のコロナ禍で、緊急事態宣言の発出による休校要請が出された3月から6月までの3か月間が、ICT機器とオンラインでの教育活動の必要性を全国の学校現場に突き付けることになったのと同様に、入試の現場にも、その必要性が迫られることになった。

そうした意味では、学校の存在意義を改めて考えさせられると同時に、「日本の教育が変わる」大きなきっかけにもなったコロナ禍のもとで、来春2021年の中学入試では、歴史的な変化が起きたとしても不思議ではない。

そして入試の変化に応じて、受験生の学力や潜在的能力を図る評価軸も多様になり、従来の「入試観」「学力観」「教育観」そのもの、大きく変化する節目となるのが、来春2021年入試だと考えても良いはずだ。

ただし、受験生と保護者には、決して必要以上の心配や不安を抱くことなく、焦らずマイペース

で、来春2021年入試に向けて、“いま、できること”に集中していただきたい。

仮に入試本番の2021年1月～2月の時期に、コロナ感染がどのような状況になったとしても、すべての私立中学校は最善の工夫と安全対策をして、受験生と保護者が志望校を受験することができるような体制や措置をとってくれるはずだからだ。

実際に過去30数年のスパンのなかで振り返って見れば、「果たして今年は中学受験ができるのかどうか？」という危機を迎えた年もあった。

1992（平成4）年には、2月1日の前夜～未明から首都圏が大雪に見舞われ、公共交通機関のほぼすべてが運休もしくは本数を減らしての徐行運転をせざるをえない状況になり、ほとんどすべての受験生親子が当初予定の集合時刻には受験校に到着できないという事態に見舞われた。しかし、この時にもほぼすべての私立中が、志願者が到着できる時刻まで試験開始時刻を遅らせて、受験生が無事に受験できるような緊急措置をとってくれた。さらに午後からの試験開始時刻にも遅れた遠方からの受験生にも、時差で試験教室を設けて順次対応し、最後に到着した受験生も無事に試験が受けられるような体制をとってくれた私立中も多かった。

また、1995（平成7）年1月17日に起きた阪神・淡路大震災の年には、兵庫県を中心とする阪神地区が壊滅的な被害を受け、この年から入試日を3月1日から2月1日に変更することになっていった兵庫の私立中は、入試日を予定より1か月遅らせる形になった。そして3月の入試当日には、まだ各地に地割れの跡や家屋倒壊による瓦礫などの傷跡が残るなか、また私立中高のグラウンドや体育館などの施設が避難所や自衛隊の臨時駐屯基地として使われるなかで中学入試が行われた。被災した受験生のなかには、避難所から直接、受験校に向かった様子の家族の姿も見られた。

ここでお伝えしたいことは、翌年度の新たな入学者を迎え入れるために、自校を志願してくれた



宝仙学園中学部は、来春2021年入試ではユニークな新入試を新設する！



小学生との大切な出会いの節目である中学入試という場をすべての私立中学校は大事にしているからこそ、たとえコロナ禍でどのような状況であったとしても、その機会に受験生が十分に力を発揮できるような体制を必ず用意してくれるということを感じてほしいということだ。

仮にコロナの感染拡大によって、入試時期に受験生と保護者が「移動（外出）ができない」という最悪の状況になったとしても、オンラインでの入試実施や、もしくは他の何らかの方法で、「受験できる」ということを信じていて良いだろう。

来春も受け継がれる今春の人気動向とリアルとオンラインの情報収集の必要性

ここまでお伝えしてきた動きのほかにも各私立中の改革は数多くある。稿末のコラムには、先ほどご紹介した動きも含めて、現在までに判明している来春2021年入試での「入試要項変更」《抜粋》を紹介しているが、この9月以降にも、さらに新たな動きが出てくる可能性が今年はとくに高い。

オンライン入試の導入や、この数年で目立ってきた私立中入試の多様化は、来春2021年入試に向けて間違いなく増加するだろう。

ただし全体としては、今春2020年入試で見られた人気傾向は、おおむね引き継がれると予想される。たとえば、①難関校の人気と入試レベルの

高位安定、②有名大学付属校の人気上昇、③多くの私立中高のグローバル教育へのシフト、④公立中高一貫校の「適性検査」市場と、私立中の「適性検査型入試」市場の拡大、⑤午後入試新設のさらなる増加、⑥算数1科目入試に代表される「得意科目選択型入試」の増加、⑦英語（選択）入試の増加、などの動きは、来春入試に向けても目立ってくるだろう。

一方で、今秋の学校説明会、学校見学会、オープンキャンパス、個別相談会など「実際に学校を訪ねて、自分の目で学校を見て、雰囲気を感じ取る」ことができる機会は、コロナ感染防止のための安全対策をとって、予約制や人数制限を設けて行うケースが増えていることから、例年と比べると限られてしまうことが考えられる。

だからこそ、受験生と保護者は、実際に学校を見に行ける機会の情報にしっかりとアンテナを立てて、志望校の見学に行くスケジュールをしっかりと立てる一方で、自宅から「オンラインで学校を知る」ことのできる学校紹介動画の発信や、双方向で質問や相談のできる「ライブ相談会」などにも積極的に参加して、「学校を知る」努力をしていく必要がある。

このコロナ禍で、多くの私立中高が、現在もリアルな登校しての教育（学校活動）と、オンラインでの教育（学校活動）の両方を生かして“ハイブリッドな”学校活動を継続しているのと同じように、受験生の保護者も、リアルとオンラインの両方の“ハイブリッドな”学校情報・入試情報の収集を心がけていくと良いだろう。

私立中約120校の参加によるオンラインでの「おうちde説明会・相談会」にご参加を！

そうした学校情報・入試情報の収集の場として、首都圏模試センターでは今回9月6日（日）の小6第3回・小5第2回「合判模試」の前日と当日に、



「総合型入試」の新設から12年目を迎える光塩女子学院は、その入試の手応えを十分に感じているという！（写真は2018年11月3日に行われた「新入試体験！私立中入試ラボフェスタ」での体験講座の様子）

2021年入試を勝ち抜く「併願作戦」を立てるヒント ～“合格”を引き寄せる5つのポイント～

ここでは、“来春2021年入試で合格をつかむ「ベストな併願作戦を組み立てる」ためのヒント”を紹介しておこう。以下は第一志望だけではなく、すべての併願校を選んでいくためにも重要なことにほかならない。だからこそ、これから受験校選びをしていくうえで、あらためて意識すべきポイントとして参考にしていただきたい。

(1) 入試本番では少なくとも6校（6回）以上に出願し、合格を得るまで「受け抜く」覚悟を固める。

→今春2020年入試での「一人平均出願校数」は6.67校。実際に中学受験にチャレンジした先輩たちが、それだけ出願しているという経験則を役立てたい。

(2) 上記（1）のことを実行するために、少なくとも10校以上の学校を見学する。

→実際に見学する学校は多いほど良い。なかには最初から受験する学校を絞り込んでいる家庭もあるが、実際に足を運んで、私立中の現在の教育内容や環境、成果を知ること、初めて「通える範囲にこんなに良い私立中があったんだ!」と気がつくケースも毎年非常に多いのである。

(3) 親子で「これだけは譲れない」という学校選択の条件を

絞り、それ以外は柔軟に受験校を選ぶ。第2志望校以下は「親の責任で」選び、併願校に加える。

→各家庭で、保護者が大切にしたい価値観や教育方針と、受験生本人が望む（本人に合った）校風や環境の両方を備えた学校を探したい。ただ、万が一のときのために考えておく併願校については、保護者の柔軟な判断と見識で選んでいくべきだろう。

(4) 併願校の難易度を上下幅広く選び、慎重かつ強気の組み合わせを考える。

→難易度として「横一線」になるような併願校の選び方は避けるべき。第1志望校へは思い切ってチャレンジしても良いが、一方ではしっかりと「押さえ」になる学校も選んでおく必要がある。

(5) どんな状態、コンディションでも、親子で「最後まで明るく」受験に挑む気持ちで。

→やはり入試本番では強い気持ちが合格へのカギになる。もし序盤で1校や2校不合格になったとしても、決してくじけはいけない。最後まで明るく受け抜いた親子は、ほとんどが実りある合格を手にかけていると考えておきたい。



昨年7月7日（日）に実施された「統一合判模試」の東京大学京北中会場では、600名以上の保護者が熱心に最新入試情報や、首都圏模試センターの最新入考コード」の説明に聞き入っていた。

120校以上の私立中の参加によるオンラインでの「おうちde説明会・相談会」を開催する。

前回7月5日（日）と、前々回5月24日（日）の「合判模試」、7月12日（日）の「適性検査型模試」の際にも開催したこの企画は、ご参加いただいた保護者の多くからご好評をいただいた。

お子さんが模試と向き合い、がんばっている当日と、その前日の機会に、保護者の皆さんにも「オンラインで」わが子の受験と学校選びに役立つ学校情報・入試情報を積極的にキャッチしていただくことをお勧めしたい。

今回9月6日（日）の「合判模試」は、安全を期して「私立中会場での実施」をせずに、「自宅受験」と「塾内受験」のみで実施することになったが、続く9月13日（日）の「適性検査型模試」

からは、今年度初めて、私立中会場での模試を実施する予定だ。そして10月度の「合判模試」以降は、できる限り私立中会場での模試を実施する方向で安全対策と準備を進めている。

ただし、この模試の際にも、これまでと同じくオンラインでの「おうちde説明会・相談会」を開催する予定だ。これも、受験生と保護者が“ハイブリッドな”方法で学校情報・入試情報を収集していけるための企画に他ならない。

とくに今年は、ほとんどの学校が例年以上に、オンラインでの学校紹介動画の配信や、オンラインでの相談会に力を入れている。

この秋からは、そうした機会に、これまで以上に目を向けて、多くの「学校を知る」ことを親子で心がけていただくと良いだろう。



「合判模試」の志望校は、“できるだけ多く”登録することが合格への秘訣！

～2018年度から変わった登録システムを生かして、1校でも多くの入試の合格可能性を探ろう～

この「合判模試」を受験するにあたっては、合格判定の対象にする志望校を各自に選んでいただいている。この「志望校登録」システムは、2017年度までは「一人最大8校」まで選んで登録することができたが、2020年度からは、実質的にさらに多くの学校（最大6校）を志望校登録して、それぞれの学校について無制限で各回入試の合格判定の結果を見ることが可能になった。

実際の入試本番でも、一人7校近く出願しているわけだから、その7校を選ぶためには、事前にもっと多くの学校を検討しておく必要がある。

（1）第1志望校（＝チャレンジ校）を複数選び、合格の可能性を比較して探る。

→この9月までに第1志望校が固まっている受験生も多いと思うが、もし他にもチャレンジしたい学校（入試）があるならば、そうした学校も志望校登録をして、合格の可能性を探ってみることが、受験勉強の励みにもなる。

（2）第2志望校（＝実力相応校）も複数選び、どのような併願作戦がベストかを探っていく。

→受験生によっては、第1志望校（＝チャレンジ校）、第2志望校（＝実力相応校）、押さえ校（＝滑り止め校）の組み合わせの校数が違ってくし、それで良い。ただ、第1志望校に続く併願校を選び出すことの方が、実際にはかえって難しい。それらの学校への合格可能性は、何度でも何校でもしっかりと探っておきたい。

志望校登録

（3）押さえ校（＝滑り止め校）も複数選び、万が一の場合にも心配ないベストの併願作戦を組み立てる。

→これも第2志望校（＝実力相応校）と同様ではあるが、受験生本人にとってベストな併願校を慎重に探っておきたい。合格の可能性が高いと判定されたり、志望校内の順位が高ければ、それが本人にとっての励みや自信にもなることは当然のことだ。

（4）併願校の難易度を上下幅広く選び、慎重かつ強気の組み合わせを考える。

→前のコラムの（4）と同様。多くの志望校を登録し、合格判定結果を受け止めることで、第1志望校（＝チャレンジ校）については、「目標（合格）までの距離や課題」を知るための参考にして、一方で他の併願校については、合格判定結果を、その時点で受験生本人が「ここまでは大丈夫!」と思えるような、自信や励みにつながるように活用すべきだ。

そのためにも、志望校登録は「1校でも多く登録（記入）する」ことが、実は合格を勝ち取るための、意外なコツになっているということを強調しておきたい。

成績	判定	対策	記録
志望校登録	併願校登録	合格可能性	合格可能性
1	品川女子学院	5.0	合格可能性: 100%
2	共立女子	5.0	合格可能性: 100%
3	実践女子	5.0	合格可能性: 100%
4	山陽学園	5.0	合格可能性: 100%
5	昭和女子大学附属昭和	5.0	合格可能性: 100%
6	法政大学	5.0	合格可能性: 100%

「合判模試」の合格判定では、最大6校まで選べる志望校について、それぞれ今年から無制限で各回入試の合格判定結果が見られるので「できるだけ多くの志望校（入試）を登録する」ことが合格への手がかりになる！

2021年入試要項《抜粋》

【帰国生入試】

曜日等の関係による日程変更の他、前倒し、日程の新設・追加等

- 江戸川女子：英語特化型（英語1科）を新設（11月23日）。基礎学力型は同日午後
- ◎神奈川大学附属：帰国生入試別枠新設（12月22日）
- カリタス女子：2月2日午後に日程追加
- 共立女子第二：11月23日に加え1月7日にも新設
- 実践女子学園：2科（国算または国英）から算数＋作文に変更。オンラインで実施。
- 品川女子学院：12月から11月15日へ前倒し
- 田園調布学園：日程を前倒しし12月6日へ
- 東京女子学院、●桐朋女

子も同日への日程変更あり）。海外在住者はオンラインで受験。

- 佼成学園、●湘南白百合学園、●山脇学園、◎聖徳学園はオンラインで帰国生入試を行うことを公表。
- 静岡聖光学院や◎かえつ有明、◎ドルトン東京学園、◎啓明学園などでもオンラインでの実施を検討中。

【日程変更・新タイプ入試導入】

日程の見直しや、新タイプ入試の導入、強化

- 開成：発表もWeb化
- 海陽中等教育学校：入試Ⅱは「算数・視聴型総合問題 または 算数」、入試Ⅲは「算数・視聴型総合問題」で実施。「視聴型総合問題」は、「国社理の内容含む。人の話を聞いて理解し、自分の考えを表せるコミュニケーション力を測る入試」

次ページへ続く ➤

前ページより続く

- 静岡聖光学院：1月10日にプログラミング入試、英語入試新設
- 獨協：2月1日午後入試新設、2科、約20名募集、当日発表。定員は2日約90名を約70名に変更
- 桜蔭：保護者面接を実施せず。発表はWeb化（予定）
- 大妻中野：2月2日午後の算数1科目入試廃止
- 大妻多摩：2月1日総合進学・総合思考力型入試[読解表現（作文）・算数・合科適性]を適性型思考力入試[読解表現（作文）・合科適性]に変更。
- 吉祥女子：入試回数を3回から2回に変更。第1回2月1日定員134名（2020年114名）第2回2月2日定員100名（2020年90名）
- 惠泉女学園：2月2日第2回は午前（2科→4科）。社会・理科各50点計45分から、各70点各30分に変更。
- 佼成学園女子：2月5日・7日に日程新設（S特待募集あり）。英語入試の日程見直し。
- 実践女子学園：2月1日・2日に思考表現入試新設。思考力+プレゼンで実施。
- 清泉女学院：2月2日（午後）に算数1科型入試新設。一期の面接は廃止。通知表コピー不要（WebからDLした「活動報告書」を受験日当日に持参）。
- 中村：ポテンシャル入試の面接および新設「国・算エクスプレス入試」をオンラインで実施。
- 日本大学豊山女子：2月2日午後の思考力［プレゼン］型入試（テーマ選択・情報收拾・まとめ・発表）を、プレゼンテーション［課題発見］型入試（プレゼンテーション・質疑応答）に。
- 富士見丘：英語特別入試を英語資格入試に変更。
- 藤村女子：2月1日午前「ナゾ解き入試」（50分の問題解決）を新設。
- 山脇学園：一般Bを、2月2日午前4科 → 午後2科に変更。英語入試Bも2月2日午前→午後
- 青山学院：2月3日から2日へ戻る。
- 桜美林：2月3日午後を、国算2科目入試から、算数1科目入試に変更。
- 神奈川大学附属：第1回2月1日午後（2科/40名。翌日発表）、第2回2月2日（4科/120名。当日発表）、第3回2月4日（4科/40名。当日発表）への変更。第2回・第3回の配点は同じ。
- 啓明学園：2月1日午後に英語1科目入試（面接なし。英検準2級レベル）を追加、新設。入学手続きは2月10日まで延長。
- 昭和学院：1月20日午後に算数1教科入試（※オンラインでも実施）
- 成立学園：ナショジオ入試をオンラインで実施。
- 桐蔭学園：2月2日午後に特別奨学生選抜入試新設（2科）。
- 東京電機大学：2月1日午後入試は、2科から国語または算数いずれか1科目選択とする（時間50分→60分）。定員は他日程減で1日午後20名増。
- 東京農業大学第一：2月1日午後入試は、2科4科選択から算理または算国に変更。定員比、集合時間にも変更あり。
- 東京立正：自由研究SDGs入試（仮称）を新設。
- 東邦大東邦：推薦入試定員増
- 新渡戸文化：「好きなこと入試」新設（オンライン併設）。
- 武南：1月11日に適性検査型入試第2回。1月16日第3回（2科）、24日第4回（2科）、2月6日第5回（国語または算数1科目）追加。
- 八王子学園八王子：2月2日午後入試に、東大・医進クラス募集も新たに追加（2科・10名）。
- 目白研心：2月2日適性検査入試（ⅠⅡまたはⅠⅢⅣ）、3日算数1科入試、3日午後次世代スキル入試（グループワーク）を新設。

◎立正大立正：適性検査型は2月1日午前に移動。

- 新クラス・コース開設、共学化、中学開校と、それに伴う要項変更など共学化、新しいクラスやコースなど学校改革も進む
- 芝浦工大：共学化し女子募集を開始。入試では、国語。算数に聴解問題、言語技術を導入。
 - 聖学院：2021年より高校に、「Global Innovation Class」を新設（高入生15名、内進生15名）。これまで同校が実践してきた「探究」「PBL型教育」「グローバル教育」を発展させ、ものづくり・ことづくりを通して世界に貢献することを目指す。教育の柱に「Immersion」「STEAM」「PROJECT」を据える。
 - 世田谷学園：来年度から「本科」と「理数」の2コース制を導入。入試日、回数は変えず、各回の定員を「本科」と「理数」に割り振る。共通問題だが「理数」コース受験者は「算・理」の配点を高める形を予定。
 - 本郷：高校募集停止。
 - 昭和女子大昭和：スーパーサイエンスコースを1年次から募集スタート。
 - ◎開智：先端4コース編成に。【先端IT】【先端MD】【先端GB】【先端FD】
 - 聖徳大学附属女子：共学化。新校名は「◎光英VERITAS(コウエイヴェリタス)中学校・高等学校」。
 - 村田女子：2021年4月、◎広尾学園小石川に校名変更&中学開校、共学化。2月1日、1日午後、2日午後、3日午後、4日午後。午前は4科目、午後は2科目。4日午後は3科（English・Mathematics・Japanese）も。本科コース40名、インターナショナルSGコース40名、インターナショナルAGコース40名。

【今年も続く国公立の科目変更・一貫化】

- ◎お茶の水女子大学附属：従来の4科目入試から「入学検定：検査Ⅰ、検査Ⅱ、検査Ⅲ」に変更。
- ◎筑波大学附属：8教科（全教科）から4科目（国算社理）に変更。
- ◎都立富士、都立武蔵（併設型一貫校）の高校募集停止。
- ◎神奈川県立中等教育学校（相模原・平塚）：グループワークについて、「新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じて適切に実施することが困難」とし、実施しないことを決定。
- ◎茨城県立高校：水戸第一（併設型）、土浦第一（併設型）、勝田（ひたちなか地区中等教育学校）の中高一貫化。2019年は太田第一、鹿島、下館第一、鉾田第一、竜ヶ崎第一。
- ◎川口市立高校附属：中学開校。第一次選考1月16日（土）発表1月21日（木）。第二次選考1月23日（土）発表1月28日（木）

【2022年入試の変更点】

- 豊島岡女子学園：高校募集停止
- ◎江戸川取手：2022年に受験生全員、英語必須（英語を含む5教科入試）とする。
- ◎千葉市立稲毛中学校・高等学校：2022年から段階的に高校募集を停止し段階的に中等教育学校へ改編。
- ◎都立両国、都立大泉の高校募集停止。白鷺は時期未定。
- ◎茨城県立高校：水海道第一、下妻第一が中学を開校し中高一貫化。

◆その他

- ◎早稲田摂陵：2021年以降の中学生徒募集を停止。同年より高等学校に、早稲田大学とさなる連携を行い、高大接続の観点から新コース（35名・3年間持ち上がり）。